

平成30年度

久留米市文化財専門委員会



- ◆ 日 時 平成30年12月7日(金) 13:30～
- ◆ 会 場 えーるピア久留米 207学習室

市民文化部文化財保護課

平成30年度 久留米市文化財専門委員会

日時：平成30年12月7日(金) 13:30～

会場：えーるピア久留米 207学習室

次 第

- 1 開会のことば
- 2 部長挨拶
- 3 平成30年度配属職員の紹介
- 4 平成29年度久留米市文化財専門委員会議事録確認
- 5 議 事
 - 第1号議案 久留米市文化財の指定について …… 1
 - ◇有形文化財（考古資料）3点
 - 概要説明
 - 有形文化財部会報告
 - 指定審議
- 6 報 告
 - (1) 平成29年度の事業報告 …… 21
 - (2) 平成30年度の事業概要 …… 53
 - (3) 次年度以降の諮問予定文化財 …… 62
 - (4) その他
- 7 閉会のことば

久留米市文化財専門委員会委員名簿(平成29年6月1日～平成31年5月31日)

部会	専門	氏名	所属
史跡	考古	にしまた ただし 西谷 正	海の道むなたか館館長
	考古	きのした なおこ 木下 尚子	国立大学法人熊本大学文学部教授
	考古	よこやま くにつぐ 横山 邦繼	学識経験者(元福岡市職員)
	古代史	しげまつ としひこ 重松 敏彦	太宰府市総務部文書情報課
名勝 天然記念物	天然記念物 植物	はしかわ ひろみ 橋川 ひろみ	福岡県農林業総合試験場資源活用研究センター
	天然記念物 植物	なかみぞ なおみ 中溝 直美	筑邦西中学校教諭
	天然記念物 生物	たかやま よしこ 高山 美子	学識経験者(元北野町文化財専門委員)
	名勝庭園	ながまつ よしひろ 永松 義博	学識経験者(南九州大学名誉教授)
有形文化財	歴史資料 古文書	うちやま かずゆき 内山 一幸	大阪経済大学経済学部助教
	美術工芸	もりやま ひでこ 森山 秀子	久留米市美術館副館長
	絵画	こばやし のりこ 小林 法子	福岡県文化財保護審議会委員
	建造物	おおもり ようこ 大森 洋子	学校法人久留米工業大学工学部 建築・設備工学科教授
無形文化財 及び 民俗文化財	民俗	だんじょう たつお 段上 達雄	学校法人別府大学文学部教授
	無形染物	とりまる さだえ 鳥丸 貞恵	学識経験者(元大阪芸術大学通信教育部教授)
	民俗	えしま まさみつ 江島 政光	学識経験者
	民俗	みやさき しんじ 宮崎 伸二	福岡県文化財保護指導委員

5. 議 事



指定候補遺物出土位置図

「寺徳古墳出土の小形仿製鏡鏡範」に関する調査報告

平成30年12月7日

1 指定候補の名称及び種別、員数

名称：寺徳古墳出土の小形仿製鏡鏡範

員数：1個

2 指定候補の所在地

久留米市諏訪野町1830-6 久留米市埋蔵文化財センター

3 所有者（管理団体）及び住所

久留米市教育委員会（教育長 大津秀明） 久留米市城南町15番地3

4 調査

（1）調査の経緯と方法

経緯：平成10年に国指定史跡「寺徳古墳」の墳丘規模確認のため、重要遺跡確認調査として発掘調査を実施した。開口部全面の残存状況を確認するためにトレンチを設定したが、表土直下より鋳型が出土している。周辺からは甕棺墓1基が出土している。

遺構に伴う遺物ではないため、当地での鋳造の有無、時期については判断できない。

調査の方法：保管場所にて状況調査を実施。また、各地の出土品のうち、主な資料を実見するとともに、比較検討を行った。また、過去に九州国立博物館にて、三次元計測および黒斑の分析を実施している。

調査者：久留米市市民文化部 文化財保護課 江島 伸彦

福岡市埋蔵文化財センター 比佐 陽一郎（平成17年度）

（2）指定候補の概要

状態：残存する部分は、全体的な形状から判断して1/2程度と考えられる。一部、破損を受けているが、状態は良好である。

法量：鏡背文は直径4.6cm、鏡面は推定6.0cm

時代：共伴資料は、弥生時代後期の袋状口縁の壺と弥生時代後期から終末期に比定される甕棺墓までの時期幅を示す。

調査によって得られた知見：

この鋳型に陰刻される鏡背面文様は、直径4.6cmで斜行状の文様が配されているものである。また、縁は狭縁である。遺構に伴った出土ではないため、当地での鋳造が行われた可能性については言及できない。石材は、実見によるものであるが石英長石斑岩である。

文様から田尻義了氏の「小形仿製鏡分類「重圏文鏡Ⅰ類」」に当てはまり、弥生時代後期初頭から前半に作られたものと推測される。

(3) 調査の所見

鏡範が出土した寺徳古墳及び鏡範出土地点は、耳納連山より派生する扇状台地上に立地している。旧竹野郡（現久留米市田主丸町）、旧生葉郡（現うきは市）の山麓からは小形仿製鏡の出土が9例報告されている。（註1）

鏡範に陰刻される鏡背面文様は、直径は4.6cmと小さい狭縁で重圏文に斜行状の文様、「く」の字状の文様が施文される。耳納北麓で採集された9例の小形仿製鏡は径5～6cmのもので鏡背文も内行花文あり当資料の類似品は見当たらない。

文様から田尻義了氏の小形仿製鏡の分類「重圏文鏡Ⅰ類」（註2）に分類されるもので、弥生時代後期初頭から前半に比定されている。また、この面の反対側には径6cm程度の鏡面鑄造跡が残っており、同時期に別種類の鏡を鑄造していることが伺われる。黒色部分が実際に使用した痕跡であるかについては、過去に比佐氏によって調査報告されている。（註3）

その方法については、微小領域用の蛍光X線分析装置を用いて、鏡背文様側において文様溝内に残る暗褐色付着物を分析するものである。この結果より周囲よりも強い銅、錫、鉛の反応やカルシウムの存在を確認したことから、使用された状況を示すものと判断されている。

5 指定の理由

弥生時代後期において、鑄型の出土事例は各所より報告されているが、青銅器、鉄器製造の痕跡については、須玖遺跡群、吉野ヶ里遺跡等の一部の遺跡に限定される。また、鏡範については、須玖遺跡群を中心とした福岡平野の一部に限定されており、当資料と筑前町ヒルハタ遺跡の2例のみが筑後川流域からの事例となる。

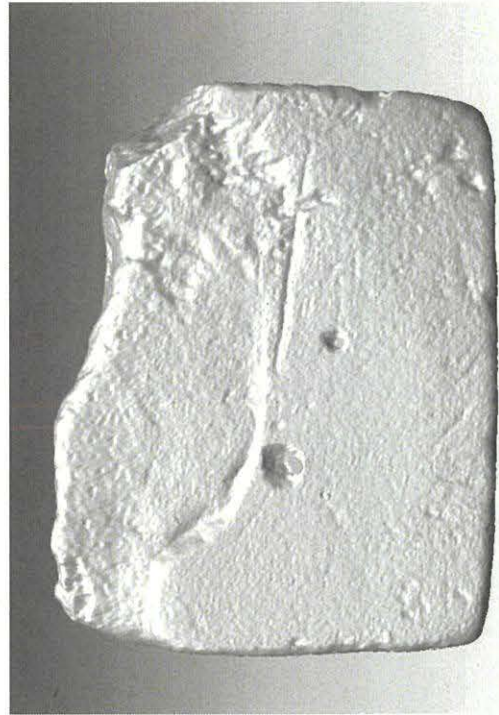
この2例については、使用済の鑄型を砥石に転用して、各地域に配布していたとの考えもあり（註4）、実際に当該地で鑄造が行われた可能性についてまでは言及できない。しかし、弥生時代後期のクニグニのネットワークを考察する上で貴重な資料といえるため、久留米市指定有形文化財として指定し、永く保存活用されるべきものである。

註1 片岡宏二 1996「村の成立と古代国家」『田主丸町誌』2巻ムラとムラビト上 田主丸町

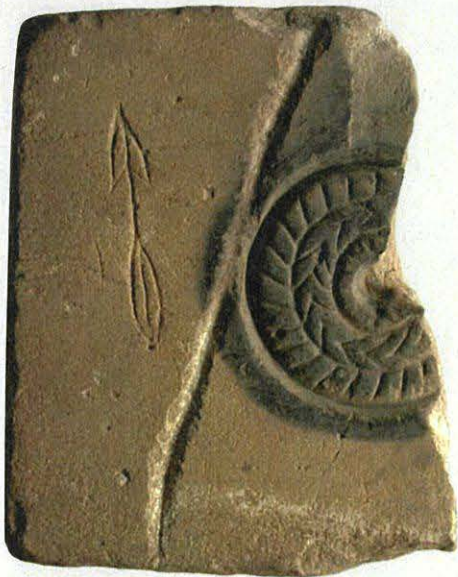
註2 田尻義了 2004「弥生時代小形仿製鏡の生産体制論」『日本考古学』11巻18号 日本考古学協会

註3 比佐陽一郎 2005「鑄造関連資料における使用痕跡の保存科学的調査（予察）」『鏡範研究』Ⅲ奈良県立橿原考古学研究所・二上古代鑄金研究会

註4 後藤直 2000「鑄型等の鑄造関係遺物による弥生時代青銅器の編年・系譜・技術に関する研究」平成10・11年度科学研究費補助金研究成果報告



三次元計測図



小形仿製鏡鏡範
 (上段及び下段は湯口からみた側面)



「隈山2号墳出土のくちなし玉」に関する調査報告

平成30年12月7日

1 指定候補の名称及び種別、員数

名称：隈山^{くまやま}2号墳^{ごうかんしゆつど}出土のくちなし^{たま}玉

員数：15個

2 指定候補の所在地

久留米市諏訪野町1830-6 久留米市埋蔵文化財センター

3 所有者（管理団体）及び住所

久留米市教育委員会（教育長 大津秀明） 久留米市城南町15番地3

4 調査

（1）調査の経緯と方法

経緯：平成24年、都市計画道路整備に伴う事前の発掘調査において、隈山古墳群の2・3号墳の発掘調査を実施した。2号墳は直径約2.2mの円墳で、内部主体は複室構造の横穴式石室である。盗掘を受け石室上半部は崩壊していたものの、玄室を中心に多くの副葬品（土師器、須恵器、馬具、武器類、工具類、装身具、玉類など）が出土している。これらのうち、玉類の種類と量は豊富で、瑪瑙玉、琥珀製棗玉、切子玉、勾玉、管玉、ガラス玉の他、銀製くちなし玉が出土している。銀製くちなし玉は福岡県内では出土例がなく、全国的にも希少なものである。

調査の方法：保管場所にて状況調査を実施。また、各地の出土品のうち、主な資料を実見するとともに、比較検討を行った。また、材質を確定するため、九州歴史資料館において蛍光X線分析を実施した。

調査者：久留米市 市民文化部 文化財保護課 神保公久

（2）指定候補の概要

状態：完形品7点、一部欠損品8点、残欠9点が出土した。銀製のため腐食が少なく、状態は良好である。

法量：直径13.5～15.5mm、孔径1.5mm、重さ1.5gと規格性が高い。

時代：共伴資料は6世紀末～8世紀前半までの時期幅を示す。

調査によって得られた知見：

くちなし玉は「梶子玉」「山梶子玉」などと表記され、出土した古墳は管見の限り、全国で26例程度である。内部が中空となる空玉の一種で、材質は銀製や青銅製があり、鍍金・鍍銀される場合がある。本例は銀製で、鍍金・鍍銀の痕跡は認められない。鍔は8単位で揃っており、中央には孔が認められる。奈良県広陵町の牧野古墳出土例

では銀糸を通して連ねており、同様の使用例が想定される。破損して2つに割れた資料を観察すると、型押しで整形したのち、2つの同型の部品を接合した痕跡が認められる。外面からは接合痕跡はほとんど認められない。製造方法は解明されていないものの、大阪府羽曳野市峯ヶ塚古墳出土の銀製空玉の検証では、水銀アマルガム法が想定されており、くちなし玉も同様の製作方法が想定される。なお、原材料は蛍光X線による分析の結果、銀製と判明している（九州歴史資料館の協力による）。

（3）調査の所見

隈山古墳群2号墳は、耳納山地西端に位置する高良山から派生した丘陵の最高所に立地する。墳丘規模から同古墳群における盟主的な位置付けが可能で、元来はさらに豊富な遺物が副葬されていたものと思われる。くちなし玉は復元可能なもので15個体出土しているが、県内では出土例がない。九州島内では出土例がなく、長崎県壱岐市の双六古墳で1個体、同市笹塚古墳で1個体出土している。全国での出土した古墳は、関東地方で3基、中部地方で5基、近畿地方で12基、中国地方で1基、四国地方で2基であり、本例も含めて合計26基と極めて稀少である。くちなし玉が出土した古墳は、奈良県生駒郡斑鳩町の藤ノ木古墳、同広陵町の牧野古墳など皇族との関連が指摘されているものや、兵庫県川西市の勝福寺古墳や茨城県小美玉市の玉里舟塚古墳など、各地域を代表する前方後円墳などの主要古墳が多い。一方で、奈良県桜井市の風呂坊古墳群や隈山古墳群のように群集墳中の中・小型古墳も認められるが、風呂坊古墳群は被葬者に鉄器生産にかかわる渡来系集団が想定されており、ヤマト政権との関連も指摘されている。年代は6世紀前半～7世紀前半と想定されているが、6世紀後半の例が多く、隈山2号墳も近い年代と想定される。

6世紀の筑後地域の出来事として、『日本書紀』などに記載のある継体21（527）年の筑紫君磐井の乱が上げられる。この乱を前後して国造制が成立し、全国の重要な拠点にミヤケが設置されるなど、ヤマト政権による地方支配制度が変質・強化されたと考えられている。乱後、筑後地域には大伴氏や物部氏が進出し、部民が設置されたと考えられており、現在も地名などに名残が窺える。一方、時期は下るが、隈山古墳群が所在する御井郡の郡司として、『高隆寺縁起』弘仁元年（810）には草部氏が見える。草部氏は全国的に認められる軍事的部民で、磐井の乱後の畿内系氏族による支配が強化されるのに際し、部民として設置された可能性も想定される。畿内を中心に出土するくちなし玉は、畿内系氏族の部民として設置された草部氏に関連する可能性も想定され、大和政権とのつながりの中でもたらされた可能性が考えられる。

以上のように、隈山2号墳のくちなし玉は、筑紫君磐井の乱の筑後地域の社会情勢と御井郡が律令制下において筑後国府が設置されるなど、政治的要衝として発展していく過程を考える上で、重要な意義を持つものと思われる。

5 指定の理由

隈山2号墳出土のくちなし玉は、出土例の希少性と良好な保存状況から、歴史的資料として価値が高く、久留米の古墳時代後期から律令国家の成立期にかけての社会情勢を考える上で貴重な資料である。よって、市指定文化財として永く保存活用されるべきものである。



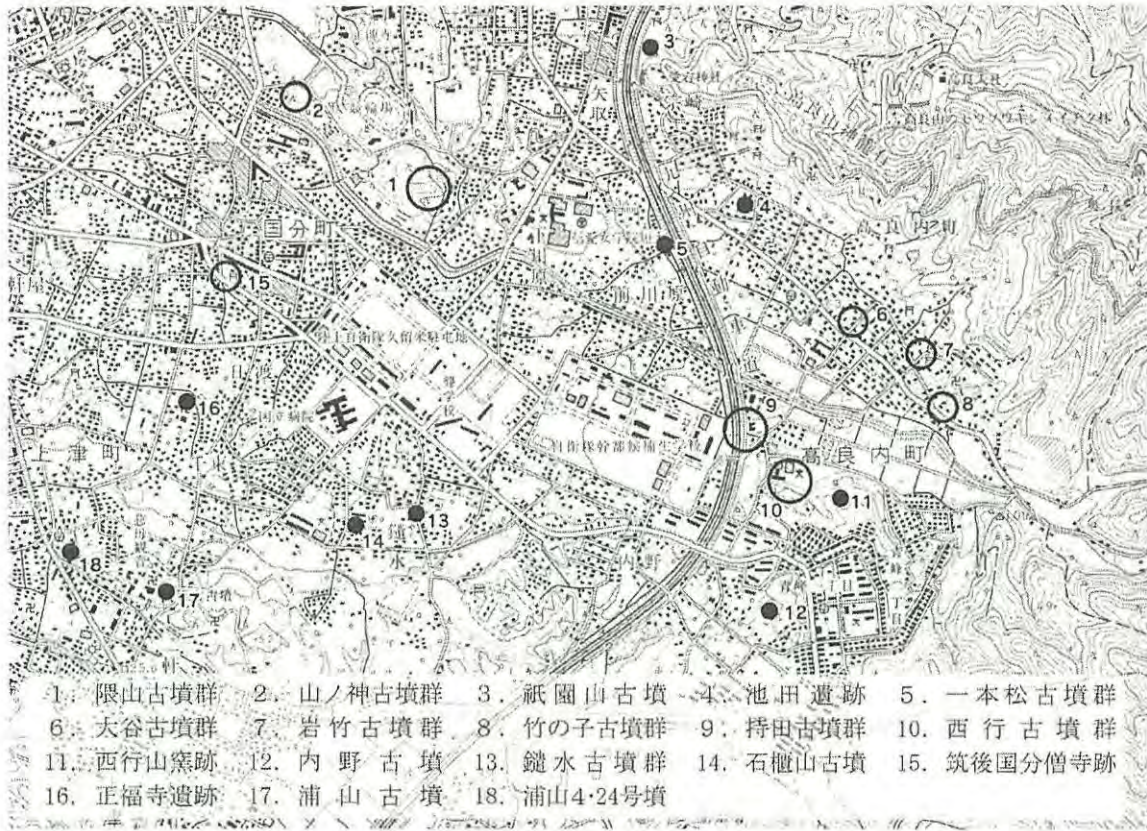
▲隈山2号墳のくちなし玉（集合）



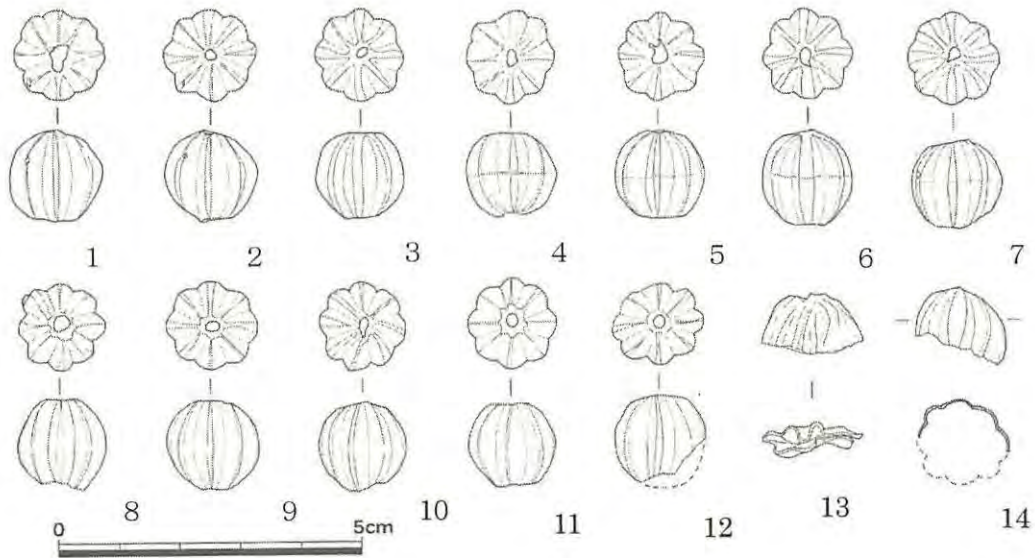
▲隈山2号墳のくちなし玉（単体）



▲隈山2号墳のくちなし玉（内面）



隈山古墳群の位置図 (1/25,000)



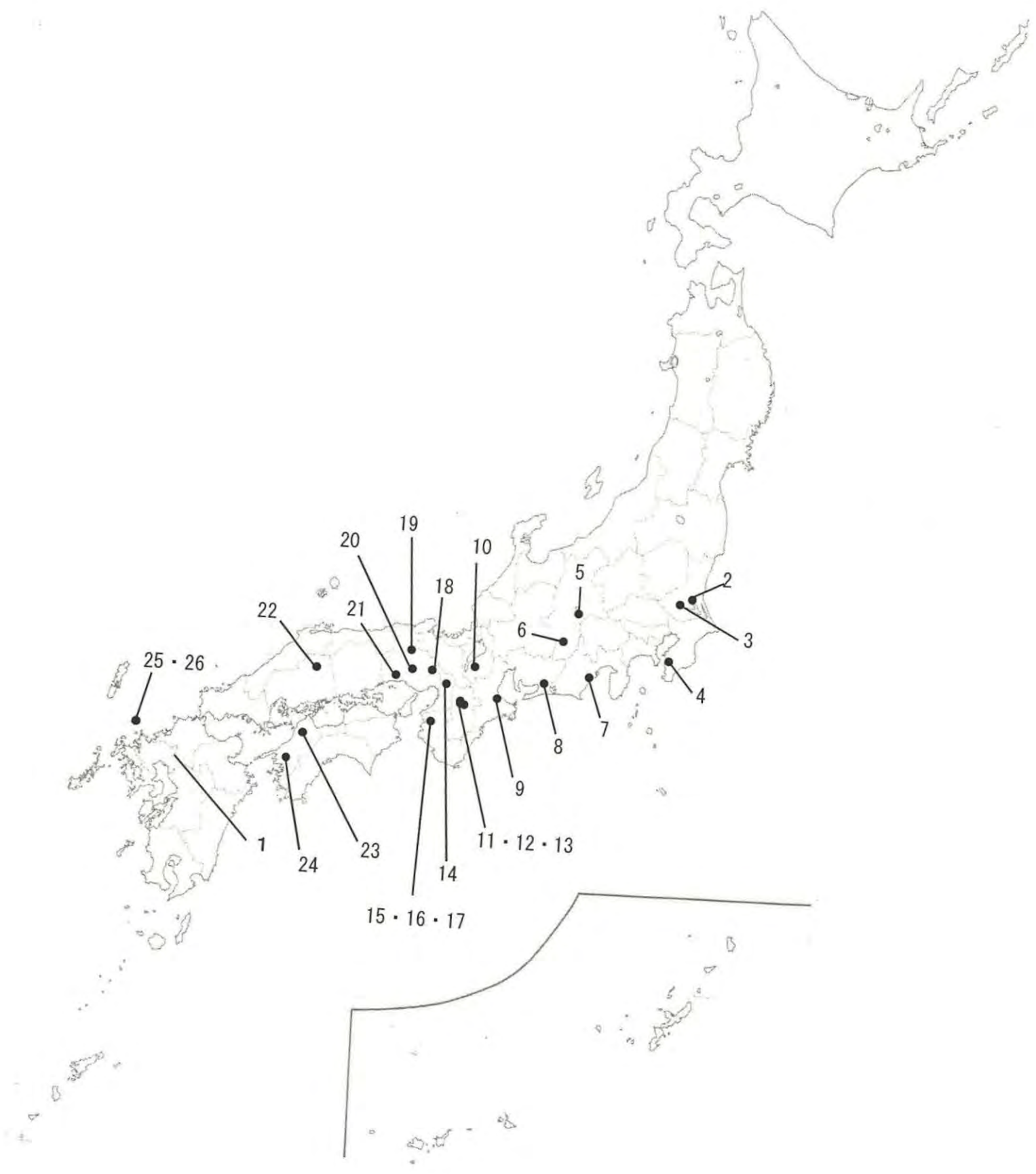
隈山2号墳出土のくちなし玉実測図

隈山2号墳出土くちなし玉一覧表

No	種別	最大径	厚さ	孔径	色	遺物登録番号	完・欠	材質
1	くちなし玉	15.0	15.0	(2.5)	黒褐	201225000032	完	銀
2	くちなし玉	15.0	15.0	1.5	黒褐	201225000033	完	銀
3	くちなし玉	15.5	14.0	1.5	黒褐	201225000034	完	銀
4	くちなし玉	15.0	13.5	1.5	黒褐	201225000036.	完	銀
5	くちなし玉	14.5	15.0	2.0	黒褐	201225000037	完	銀
6	くちなし玉	15.5	15.5	1.6	黒褐	201225000038	完	銀
7	くちなし玉	15.0	14.5	1.4	黒褐	201225000039	完	銀
8	くちなし玉	14.0	(15.0)	2.0	暗赤灰	201225000176	欠	銀
9	くちなし玉	15.5	15.0	1.5	暗赤灰・黒褐	201225000177	欠	銀
10	くちなし玉	15.0	14.0	1.4	暗赤灰	201225000178	欠	銀
11	くちなし玉	15.0	14.0	2.0	赤灰	201225000179	欠	銀
12	くちなし玉	16.0	(14.0)	2.0	暗赤灰	201225000181	欠	銀
13	くちなし玉	10.0	17.0	1.5	紫黒	201225000155	欠	銀
14	くちなし玉	15.0	(9.0)	—	暗赤灰・褐	201225000180	欠	銀
15	くちなし玉	(14.0)	(1.1)	—	黒褐	201225000035	欠	銀

「くちなし玉」出土古墳一覧

地図 No	古墳名	地名	墳形	時期
1	隈山2号墳	福岡県久留米市	円墳	6世紀後半
2	風返稻荷山古墳	茨城県かすみがうら市	前方後円墳	7世紀前半
3	玉里舟塚古墳	茨城県小美玉市	前方後円墳	6世紀中頃
4	九条塚古墳	千葉県富津市	前方後円墳	6世紀中頃
5	小丸山古墳	長野県諏訪市	円墳	7世紀初頭
6	雲彩寺古墳	長野県飯田市	前方後円墳	6世紀前半
7	賤機山古墳	静岡県静岡市	円墳	6世紀後半
8	磯辺大塚古墳	愛知県豊橋市	円墳	6世紀後半
9	天保1号墳	三重県松坂市	円墳	6世紀中頃
10	甲山古墳	滋賀県野洲市	円墳	6世紀前半
11	藤ノ木古墳	奈良県生駒郡斑鳩町	円墳	6世紀後半
12	牧野古墳	奈良県北葛城郡広陵町	円墳	6世紀後半
13	風呂坊古墳群	奈良県桜井市	円墳	6世紀?
14	海北塚古墳	大阪府茨木市	円墳?	6世紀後半
15	大日山35号墳	和歌山県和歌山市	前方後円墳	6世紀中頃
16	将軍塚古墳	和歌山県和歌山市	前方後円墳	6世紀後半
17	鳴滝1号墳	和歌山県和歌山市	円墳	6世紀中頃
18	勝福寺古墳	兵庫県川西市	前方後円墳	6世紀中頃
19	上山5号墳	兵庫県朝来市	円墳	6世紀後半
20	東山10号墳	兵庫県多可郡中町	円墳	7世紀前半
21	袋尻浅谷1号墳	兵庫県たつの市	不明	6世紀末
22	唐櫃古墳	広島県庄原市	前方後円墳	6世紀後半
23	土壇原14号墳	愛媛県松山市	円墳?	6世紀後半
24	河内奥ナルタキ1号墳	愛媛県西予市	円墳	6世紀後半
25	双六古墳	長崎県壱岐市	前方後円墳	6世紀後半
26	笹塚古墳	長崎県壱岐市	円墳	6世紀後半



▲「くちなし玉」が出土した古墳の位置図

「高三瀦遺跡出土の小銅鐸」に関する調査報告

平成30年12月7日

1 指定候補の名称及び種別、員数

名称：高三瀦遺跡出土の小銅鐸^{しょうどうたく}

員数：1個

2 指定候補の所在地

久留米市諏訪野町1830-6 久留米市埋蔵文化財センター

3 所有者（管理団体）及び住所

久留米市教育委員会（教育長 大津秀明） 久留米市城南町15番地3

4 調査

（1）調査の経緯と方法

経緯：平成26年、開発に伴う事前の発掘調査として、高三瀦遺跡第4次調査を実施した。

この調査は調査面積約72㎡と狭いながらも、調査区の約半分を上端幅約3m、深さ約1mの大溝が占めており、約100箱に及ぶ多量の遺物が出土している。小銅鐸はこの大溝上層から、廃棄された多量の土器とともに出土している。

調査の方法：市内の調査事務所において出土時点の実測と写真撮影を実施し、あわせて出土事例を調査した。その後、九州歴史資料館においてCTスキャナーにて残存状況を確認した。また、材質に含まれる鉛同位体比測定を実施し、鉛同位体比法を用いた産地の推定を行った。

調査者：久留米市 市民文化部 文化財保護課 神保公久 小川原励

（2）指定候補の概要

状態：錆化が進んでおり残存状況は悪い。CTスキャナーによる観察では、上部と側面が破損していることが明らかとなった。一方で、裾部の型持孔が明瞭に確認できるなど、原型は比較的良好に保っている。

法量：高さ6.6cm、裾部幅4.0cm、厚さ2.7cmで、小銅鐸としては平均的な大きさである。

時代：溝上層に含まれる共伴資料は弥生時代後期前葉～終末期までの時期幅を示す。

（3）調査の所見

高三瀦遺跡は、筑後川中流域の標高6mの低台地上に立地する。地形から南北約750、東西約950mの範囲に広がっているものと思われ、採集された土器から北部九州の弥生時代後期前葉の標識土器「高三瀦式土器」が設定されている。近隣の御廟塚貝塚からは、江戸時代

に銅剣の出土が伝えられるなど、青銅器の出土地としても注目されてきたが、近年まで発掘調査は実施されておらず遺跡の内容は不明であった。しかし、平成25年度以降、これまで8次に及ぶ調査が実施されており、徐々に遺跡の解明が進みつつある。

小銅鐸の出土例は全国で約60例が知られ、九州では15例、福岡県内では11例がある。近隣では、佐賀県鳥栖市本行遺跡で1点の出土が知られるが、筑後地域では初出土で、筑後川以南では稀少な出土例となる。祭祀具とされる銅鐸の小型品と考えられているが、中国漢代の馬鈴から朝鮮半島で「朝鮮式小銅鐸」として発展したとする説もあり、実際の使用法など機能面では解明されていない。ただし、紐を通す部分や内部から舌が出土した事例も確認されており（嘉麻市原田遺跡、糸島市浦志A遺跡）、実際に鳴らして使う実用的な使用法も想定されている。

市内での弥生時代青銅器の出土例は、銅剣4口、銅矛5口、銅鏡7面と少なく、小銅鐸は初出土である。これらは、北野町良積遺跡と高三瀦遺跡など拠点的な集落遺跡に集中して出土する傾向が窺え、本遺跡の重要性を示唆している。また、市内東合川町の新府遺跡出土の鋳型が小銅鐸の鋳型として『久留米市史』（第12巻）に紹介されているが、小銅鐸ではなく銅矛などの鋳型である可能性が指摘されている。

なお、日鉄住金テクノロジー株式会社に委託した鉛同位体比法を用いた原材料の産地推定の結果では、これまで行われてきた21例の分析結果との比較から、中国華北産の鉛が使用された可能性が高いことが指摘されている。原材料の入手ルートや製作地の問題などは今後の課題である。

以上のように、高三瀦遺跡出土の小銅鐸は、弥生時代の青銅器生産や流通、筑後川以南における青銅器文化の研究、社会情勢を考える上で重要な意義を持つものと思われる。

5 指定の理由

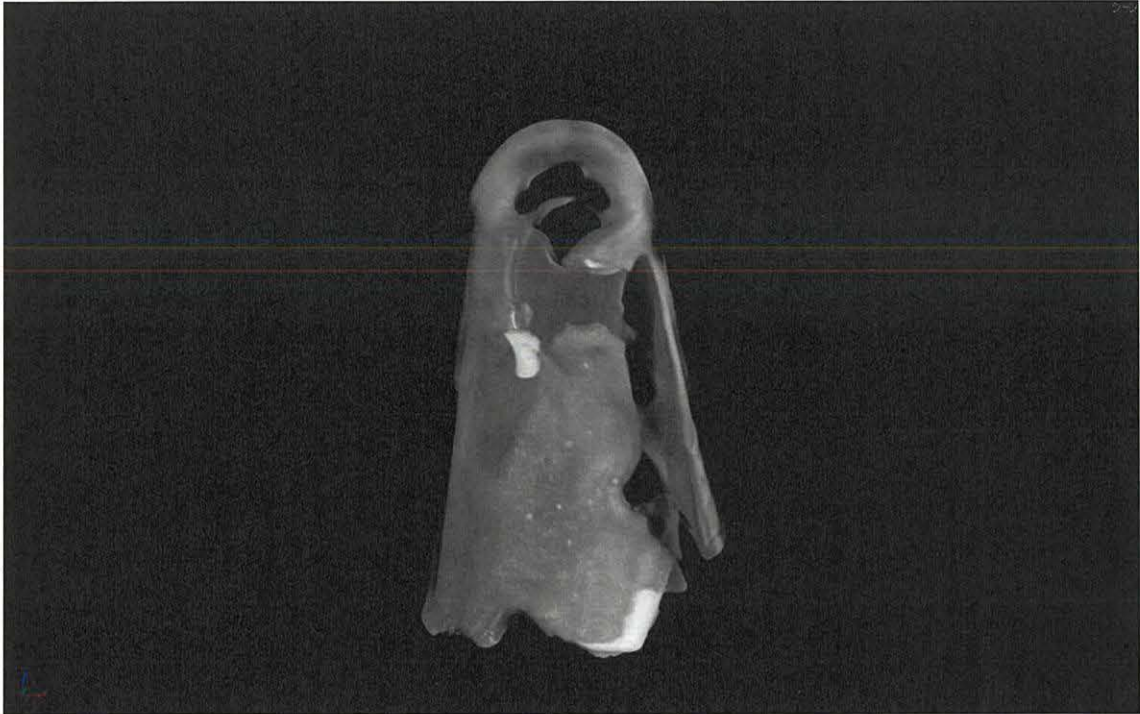
高三瀦遺跡出土の小銅鐸は、筑後地域での青銅器出土例の希少性と、性格不明な小銅鐸の機能を解明する上でも良好な資料である。弥生時代後期における青銅器文化と社会情勢を考える上で貴重な歴史資料であり、市指定文化財として永く保存活用されるべきものである。



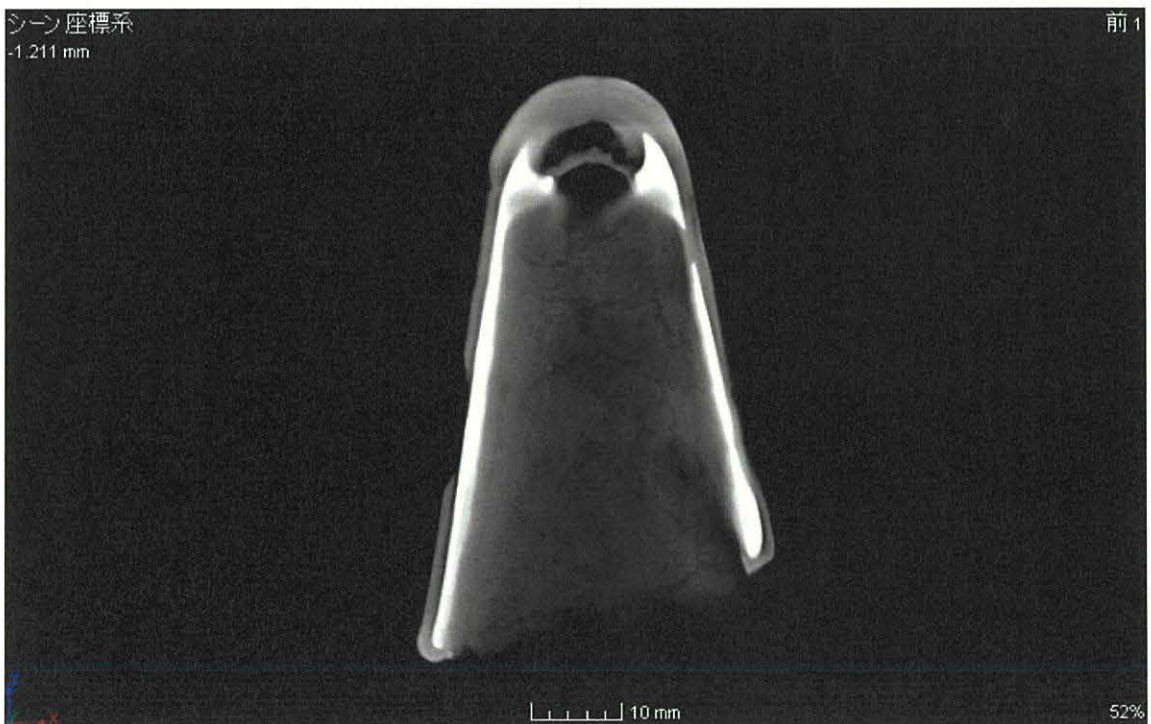
▲小銅鐸



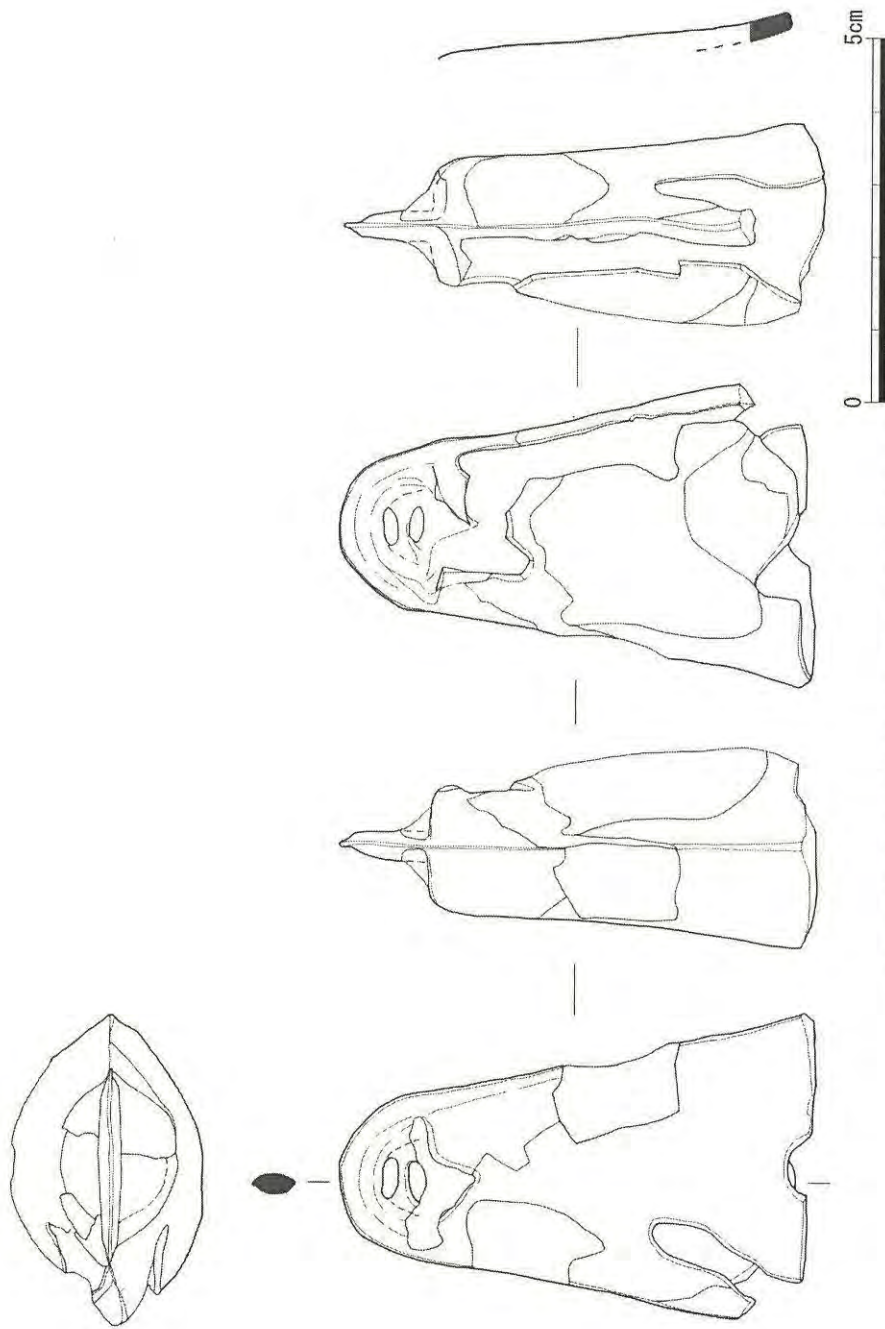
▲小銅鐸CT画像①



▲小銅鐸CT画像①



▲小銅鐸CT画像③



高三瀨遺跡第4次調査出土小銅鐸実測図(1/1)



小銅鐸出土地

▲高三瀨遺跡第4次調査 調査風景（南東から）



▲高三瀨遺跡第4次調査地全景（東から）



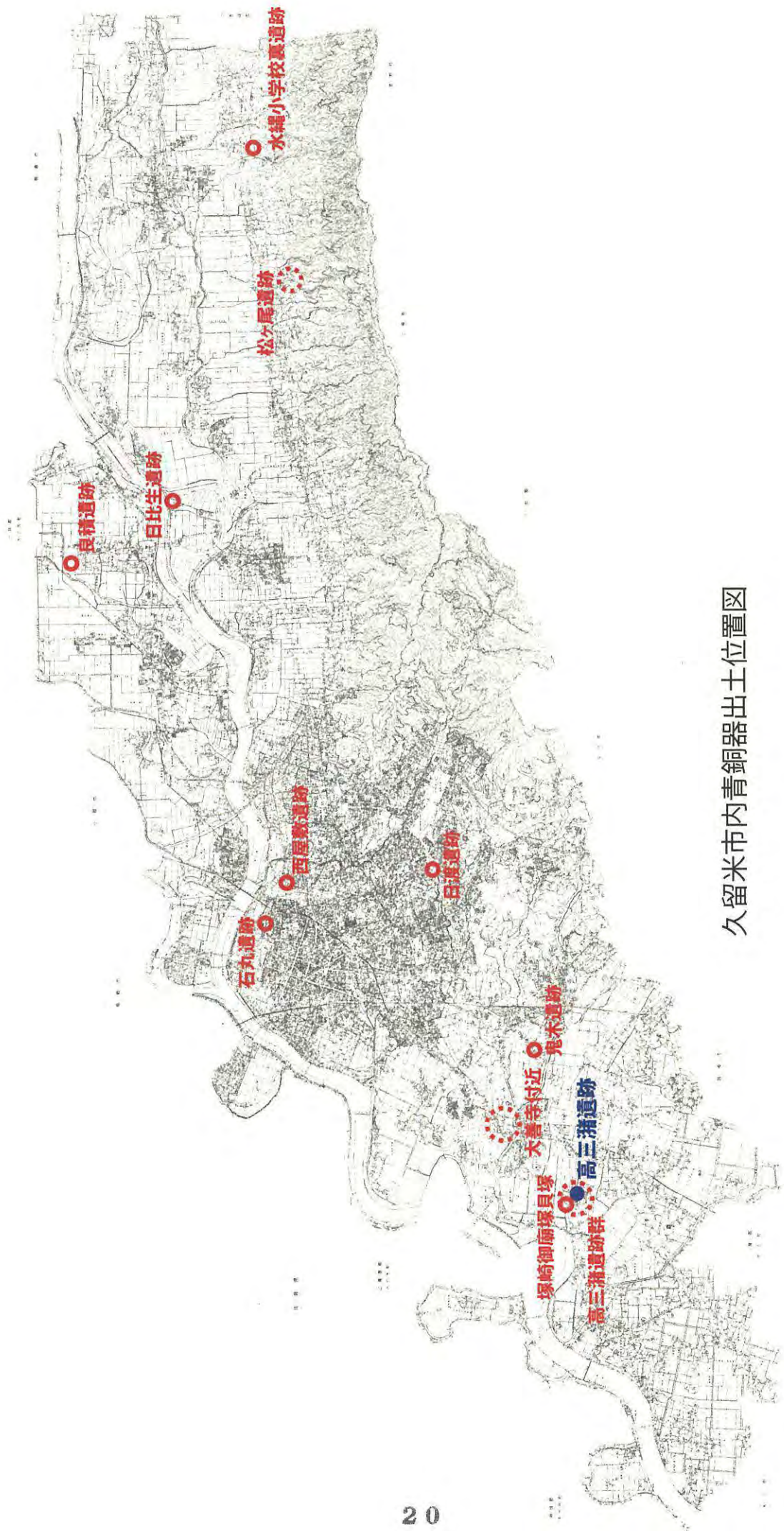
▲出土状況（北西から）



▲出土状況（北西から）

小銅鐸出土地一覽表

遺跡名	地名	出土遺構	廃絶時期	高さ(cm)	文様	鍔	指定
1 高三瀨遺跡	福岡県久留米市	溝	弥生後期 ～終末	6.6	無	有	
2 上日置女夫木遺跡	熊本県八代市		弥生中期	5.3	無	無	
3 多武尾遺跡	大分県大分市	溝	弥生終末	5.5	無	無	
4 別府遺跡	大分県宇佐市	竪穴建物	弥生後期	11.8	無	無	
5 本行遺跡	佐賀県鳥栖市	溝	弥生後期	4.9	無	有	県指定
6 立明寺遺跡	福岡県筑紫野市	溝	弥生後期	4	無	無	
7 原田遺跡	福岡県嘉麻市	木棺墓	弥生中期	5.5	斜格子文	無	県指定
8 比惠遺跡	福岡県福岡市博多区	井戸	弥生終末以降	5.3	無	無	
9 元岡・桑原遺跡群	福岡県福岡市西区	溝	弥生後期	6.5	無	無	
10 元岡・桑原遺跡群	福岡県福岡市西区	溝	弥生後期	7	無	無	
11 井尻B遺跡	福岡県福岡市南区	竪穴建物	弥生後期	5.3	無	無	
12 板付遺跡	福岡県福岡市博多区	竪穴建物内ピット	弥生後期	7.6	無	無	市指定
13 今宿五郎江遺跡	福岡県福岡市西区	土坑	弥生後期 ～終末	6.6	無	無	
14 今宿五郎江遺跡	福岡県福岡市西区	溝	弥生中期 ～後期	13.5	無	無	市指定
15 浦志遺跡	福岡県糸島市	溝	弥生後期 ～終末	6.55	無	無	
16 大南遺跡	福岡県春日市	溝	弥生後期	9.4	袈裟襷文	無	
17 弘田川西岸遺跡	香川県善通寺	包含層	弥生後期	4	無	無	
18 伝 江原遺跡	伝 徳島県美馬市	表採		6.2	無	無	
19 横寺遺跡	岡山県総社市	竪穴建物	弥生	5.5	無	無	
20 足守川矢部南向遺跡	岡山県倉敷市	竪穴建物内土坑	弥生後期	6.42	無	無	
21 下市瀬遺跡	岡山県真庭市	井戸枠	奈良	6.6	無	有	市指定
22 長瀬高浜遺跡	鳥取県東伯郡湯梨浜町	竪穴建物	古墳前期	8.8	渦文	有	
23 東郷北福遺跡	鳥取県東伯郡湯梨浜町	表採		9.25	無	無	
24 月若遺跡	兵庫県芦屋市		古墳初頭 ～古墳前期	6.6	無	無	市指定
25 高篠谷ノ郷遺跡	兵庫県三木市	溝		6	無	無	市指定
26 東奈良遺跡	大阪府茨木市	溝	弥生中期後半	14.2	円形文・綾杉文・三角文	無	市指定
27 上フジ遺跡	大阪府岸和田市	竪穴建物	弥生中期 ～後期	3.5	無	無	
28 (柏原)本郷遺跡	大阪府柏原市	溝	弥生後期	10.5	無	無	市指定
29 寛弘寺遺跡	大阪府南河内郡河南町	竪穴建物	弥生後期	6.1	無	無	
30 下鈎遺跡	滋賀県栗東市	溝	弥生中期 ～後期	3.4	無	無	
31 松原内湖	滋賀県彦根市	弥生後期包含層	弥生後期	5.5	無	無	
32 志那遺跡	滋賀県草津市	湖中		12.7	袈裟襷文	有	
33 白浜遺跡	三重県鳥羽市		弥生中期 ～後期	12	無	有	
34 草山遺跡	三重県松坂市	奈良時代の遺構 へ混入		5.4	無	無	
35 余野神明下遺跡	愛知県丹波郡大口町	個人発掘		5.6	無	無	
36 青木原Ⅱ遺跡	静岡県三島市	河岸部	弥生後期 ～古墳前期	12.6	綾杉文	有	市指定
37 愛野向山Ⅱ遺跡	静岡県袋井市	木棺墓?	弥生後期	7.5	無	無	
38 伊場遺跡	静岡県浜松市	個人発掘		7.8	無	無	
39 有東遺跡(有東第一遺跡)	静岡県静岡市	表採		6.44	無	無	
40 閑峯遺跡	静岡県沼津市	表採		7.8	無	無	
41 船津陣ヶ沢遺跡	静岡県富士市	円墳石室	古墳	6	無	無	
42 瓜生助遺跡	福井県越前市	竪穴建物	弥生後期	6	無	無	
43 藤江B遺跡	石川県金沢市	溝	古墳中期	7	無	無	
44 内沢遺跡	神奈川県平塚市	溝	古墳前期	10	無	有	
45 河原口坊中遺跡	神奈川県海老名市		弥生後期	7.9	無	無	
46 (海老名)本郷遺跡	神奈川県海老名市	竪穴建物	古墳前期	7.9	無	無	
47 中郷遺跡	東京都八王子市	竪穴建物	弥生終末 ～古墳初頭	3.35	無	無	
48 高田馬場3丁目	東京都新宿区	竪穴建物	弥生後期 ～古墳前期	5.8	無	無	区指定
49 中越遺跡	千葉県木更津市	竪穴建物	古墳前期	6.35	無	無	
50 水神下遺跡	千葉県袖ヶ浦市	流路跡	古墳	6.26	無	無	
51 文協遺跡	千葉県袖ヶ浦市	土壇墓	弥生終末 ～古墳初頭	10.8	無	無	
52 大井戸八木遺跡	千葉県君津市	土壇墓	弥生後期	9.45	無	無	
53 草刈遺跡I区	千葉県市原市	竪穴建物	古墳前期	4.95	無	無	県指定
54 草刈遺跡H区	千葉県市原市	方墳周溝	古墳前期	5.93	無	無	県指定
55 川焼台遺跡	千葉県市原市	竪穴建物	弥生終末 ～古墳前期	9.9	無	有	県指定
56 川焼台遺跡	千葉県市原市	竪穴建物	弥生後期	12.25	袈裟襷・綾杉文	有	県指定
57 天神大遺跡	千葉県市原市	竪穴建物	古墳前期	6.8	無	無	
58 中溝Ⅱ遺跡	群馬県太田市	竪穴建物	古墳前期	4.2	無	有	
59 田間遺跡	栃木県小山市	表採		10.3	無	有	



久留米市内青銅器出土位置図